

教育普及の仕事

＜静岡県富士山世界遺産センター 企画総務課 主査 岩淵 智紀＞

静岡県富士山世界遺産センターに勤務していると、「センターではどんな仕事をしているんですか？」「来館者の案内をしているんですか？」といった質問をよく頂きます。そこで今回は、教育普及の仕事を少し紹介していきたいと思います。

自分が担当している教育普及の仕事の一つに、「富士山世界文化遺産出前講座」があります。本講座は、富士山の自然や文化、世界遺産についての基礎知識をわかりやすく説明することで、富士山への理解と関心を深め、世界遺産としての後世継承への気運醸成を目指しています。講座は、教育普及が担当する「富士山入門」と学芸課職員が担当する「専門講座」の2つに分かれます。学校（小・中・高）の「総合的な学習（探究）の時間」や「特別活動」での野外活動の事前学習のほか、生涯学習センター等各種団体からの依頼に応じて実施しています。昨年度までの実施回数は下の表の通りです。

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
一般（回）	8	36	58	コロナ過のため 実施なし	23	37	53	49	30
人数（人）	493	1969	4266		772	1157	1816	1718	977
小学校（回）	0	19	15		16	25	14	20	13
中学校（回）	2	9	7		6	11	9	14	5
高 校（回）	0	3	8		5	2	7	6	1
大 学（回）	0	2	2		3	3	4	3	8
その他（回）	1	0	0		1	0	5	0	0
人数（人）	329	2897	1671		2785	4127	3546	3174	1709

※平成 29 年度は 12 月 23 日（センター開館日）以降の実施回数。

※令和3年度はリモート開催も含む。

学校団体の申し込みの中でも、教育普及が担当する「富士山入門」の「世界遺産の富士山を学ぼう」が特に多く、その講師を今年度は自分が担当しています。静岡県側（富士宮市の「朝霧」地域）や山梨県側（「富士五湖」周辺）での宿泊学習の事前学習として、多くの小・中学校から申し込まれるため、小学校 5 年生と中学校 2 年生が中心です。本講座の大まかな流れは次のようになります。

- 1 富士山ってどんな山？
- 2 世界遺産ってなに？
- 3 なぜ富士山は世界文化遺産なのか？



ここで大切なところは、やはり3の「なぜ富士山は世界文化遺産なのか？」になります。小学生や中学生はこのことをどれくらい理解していると思いますか。正式な統計ではありませんが、現場の実感としては、「世界文化遺産」だと知っている児童生徒は、半数程度という印象です。なぜ「世界文化遺産」なのかということを理解している児童生徒はほとんどいません。

富士山が世界遺産登録された際(第37回世界遺産委員会)の勧告事項に、次のような指摘があります。

e) 来訪者施設(ビジターセンター)の整備及び個々の資産における説明の指針として、情報提供を行うために、構成資産のひとつひとつが資産全体の一部として、山の上方及び下方(山麓)における巡礼路全体の一部として、認知・理解され得るかについて知らせるための情報提供戦略を策定すること

この勧告に対する回答の概要には、学校教育と連携した授業を通じて、顕著な普遍的価値に関する情報提供を行うことも明記されています。

このような背景を知ると、「世界遺産の富士山を学ぼう」という講座が、単なる学習ではなく、国際社会から日本に課せられた大切な約束なのだと実感します。しかし同時に、この約束がまだ十分に果たされていないのではないかという危機感も感じています。児童生徒の「へえ、そうなんだ!」という反応を見ると、富士山が世界遺産であることや、その普遍的価値をきちんと理解している児童生徒がいかに少ないかに気づかされます。だからこそ、センターの教育普及の役割はより一層重要なのです。小さな「気づき」の積み重ねが、やがて富士山の普遍的価値を次の世代へ確実に引き継ぐ力になると信じて、今後も進めていきたいと考えています。

